

令和6年度第1回宇治市文化芸術推進委員会議事録

日時 令和6年8月22日(木) 午後3時～午後5時

場所 宇治市役所8階 大会議室

出席者

宇治市文化芸術推進委員会

委員長 滋野 浩毅

職務代理 吉水 利明

委員 岩井 亨

〃 小宮山 恭子

〃 津田 貴子

〃 西田 尚武

〃 左 美幸

〃 福井 ひろ子

〃 山本 淳子

事務局

産業観光部部長 脇坂 英昭

産業観光部副部長 柏木 三奈

産業観光部 観光振興課長 木田 陽子

〃 文化スポーツ課長 岡部 均

〃 文化スポーツ課 副課長兼文化係長 倉井 麗子

〃 〃 文化係 主任 桑原 大

〃 〃 文化係 再任用主任 西澤 久美子 他1名

資料

・次第

・会議資料 資料1～資料4

会議内容

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 委員、事務局職員紹介

5. 議事等

(1) 委員長選出、委員長職務代理氏名

委員長挨拶

今年は大河ドラマの放送を契機に文化芸術への興味が高まっており、それを持続させていくために市民のバックアップや興味を育てていくことが、文化芸術を考える上では大切だと考える。宇治市の文化芸術に関する様々な施策・事業について進捗状況等を確認いただきながら、皆様の忌憚のない意見を踏まえた上で、より良いものにしていきたいと考えている。

(2) 文化芸術振興基本計画における令和5年度の事業実施状況について

- ・事務局より「文化芸術振興基本計画における令和5年度の事業実施状況について」資料2説明。

(委員長)

数値目標について、計画期間中の目標値に対して現在の推移はどのような進捗状況か。

(事務局)

令和5年度はコロナがあけたものの、すべての文化芸術活動がコロナ以前の状態には戻っていない印象。LINEやおうえんチャンネル等の情報発信の機会は増えている。また、実際に文化芸術に触れる機会として、文化センター利用者数は、令和5年度は前年度に比べて2～3万人近く増加しており、今後も動向を注視していきたい。

(委員)

この数値目標は市民を中心に設定されていると思うが、宇治市の市民文化を含めた文化芸術を享受する対象は、インバウンドを含め旅行客等、世界の方も含まれる。

市民が参加された様々な事業、文化芸術施策の成果物をデータ化し、HPに掲載する等、すべての方が楽しめるようにすることで、それらを見た人が宇治の文化芸術に興味を持ち、足を運ぶきっかけや移住促進等にも繋がるのではないかと。

(事務局)

市民に限らず世界中の様々な方に魅力を伝えられるよう、こういった方法が出来るか検討していきたい。

(委員長)

市民の文化度が高まり、それを発信するためアーカイブ化することで、アクセスする人が増え、宇治のまちのブランド化など良い循環に繋がっていくと思うので、是非考えていただきたい。

(委員)

文化センターの利用者数をより増やすためには、足の問題は越えなければならないハードルの一つと考える。市全体として、イベント時のバスの運行等、移動しやすい方法について検討していくことで、文化芸術に限らず全てが上手く発展していき、市民の機運も高まっていくのではないかと。

(事務局)

交通手段の面は、文化センター利用者の意見からも把握している。

昨年度は3回、大きなイベントの際に、主催者からの提案でシャトルバスを運行していただいている。市としても、どのような形で何が実施できるか、引き続き検討していきたい。

(委員長)

文化に触れる機会を考えると、アクセスする権利というものがあり、移動をどうするかという問題は当然含まれる。この委員会だけで解決できる問題ではないかもしれないが、議論のきっかけになればと思う。

(委員)

文化センターでなくても出来る事業を、アクセスが良い茶づなで実施することで、茶づなの有効利用にも繋がるのではないかと。

(委員長)

宇治市は文化センター、茶づな、源氏物語ミュージアム等、文化関連施設が充実している。それらを上手く活用し、効果的な文化芸術施策を実施していくのが良いと思う。

(委員)

様々な文化的事業やイベントが行われていることがわかるが、常にアンテナを張っている人でないと情報をキャッチできていないように感じる。

(委員長)

情報発信と受け手の関係のミスマッチ、情報を発信しているが受け止められていないということかと思うが、何か考えはあるか。

(事務局)

市政だより・HP・チラシ・SNS等で発信しているが、必要な方に必要な情報を伝えるためにはどのようにすればよいか、検討していかなければならないと考えている。

(委員長)

情報を発信しているが受け取られていないということは、発信するコンテンツが

合っていないという可能性もあり得るので、そのあたりの検証も必要かと思う。

一方で、Y o u T u b eの再生回数等は多くもあり、情報発信をどのように考えるかについては今後の課題ではないか。

(3) 令和6年度「源氏ろまん2024」(案)について

・事務局より「令和6年度「源氏ろまん2024」(案)について」資料3説明。

(委員)

文化会館で実施される事業について、応募者多数の場合は抽選となっているが、会場の定員を考えるともう少し募集枠を広げてはどうか。

(事務局)

いずれも昨年度の実績等を踏まえた人数を設定している。会場のレイアウトとして見にくい場所等もあるため、すべてを使用するという事は難しいが、出来る限り多くの方が入れるよう検討したい。

(委員)

古典の日フォーラムは、恐らく初めて京都市以外の会場で実施されると思う。会場となる文化会館への足の問題は大丈夫か。

(事務局)

主催者の方でも交通手段については検討されているが、具体的にバスを走らせる等はなかなか難しいとも伺っている。

(委員)

大河ドラマをきっかけに実施している多くの事業を、来年以降も継続していくことが大事。例えば、小学生から高校生を対象に源氏物語の朗読コンテスト等を行うことで、若い世代から繋いでいけるのではないか。来年度以降について、行政として何か考えはあるか。

(事務局)

今年は「光る君へ」の放送もあり紫式部関係が非常にクローズアップされている。これまでから30年にわたり源氏物語のまちづくりを進めており、今回、紫式部や源氏物語が再発信され、改めて多くの方に知っていただく機会になっている。様々な取り組みを持続発展させる方向性で、進めていきたいと考えている。

もう一点、朗読コンテスト等のご意見については、教育委員会等とも連携し、子ども達に古典や文化が根付くような取り組みをしっかりと進めていきたいと考えている。

(委員)

今回、木幡エリアがクローズアップされPRされたのは良いこと。浄妙寺跡や宇治陵、松殿山荘といった歴史的な遺産を活かした事業を、今後、源氏ろまん事業の中に入れて、活用していただきたい。

(事務局)

このようなきっかけで新しい所を多くの方に紹介できることになるので、こうい

った新しい事業は続けていきたいと考えている。宇治には多くの歴史エリアがあるので、それらも含めてしっかりと情報発信していきたい。

(委員長)

大河ドラマがきっかけで、これまであまりクローズアップされてこなかった場所がスポットを浴びるとするのは良いこと。これが地域の発信や或いは観光などのきっかけになれば良いと思う。

(4) 紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて

・事務局より「紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて」資料4説明。

(委員)

去年から越前市・大津市と3市連携をし、盛り上げるための様々な取り組みをしているが、大津市の石山寺にある大河ドラマ館はにぎわっているが、宇治の大河ドラマ展はどうか。

(事務局)

現在の来場者数としては、先日ちょうど5万人の記念を超えたところであり、様々な要因もあり当初の目標には届いていないため、PRを強化している。宇治市ではドラマ展の展示のみでなく、平安時代の宇治を知っていただける歴史も一緒に展示している。

(委員)

宇治市と越前市には源氏物語や紫式部関係のミュージアム等があり、それらの施設がもともと集客数を持っていたところに、さらに大河ドラマ展が開催されているということで、これまでの源氏物語ファンに加えてより多くの人が訪れている状況かと思う。大津市の状況と単純に比較できるものではないのかもしれない。

宇治十帖は源氏物語の最後に描かれたということ、恐らく大河ドラマでも丁寧に描くのではないかと思うので、今後に向けて盛り上げる用意をしてはどうか。

(委員長)

大河も後半に入り、宇治はこれからかと思うので、ぜひ盛り上げていただきたい。

(委員)

アクセス面では宇治の大河ドラマ展が最も良いと思うが、集客につながらないのはなぜか。宇治には紫式部だけではなく、道長・頼道に関わる平等院を初め様々な歴史的遺産が残っており、大河が終わっても集客につなげられるポテンシャルがある。それらを活かした取組をしていけば、茶づなの利用者数も増えるのではないか。

(事務局)

宇治の大河ドラマ展においても藤原氏は欠かせないと考えており、様々な事業においても、その点にも注目しながら実施している。PRについては駅の広告等も含め取り組んでおり、大河ドラマ放送後も、引き続きPRや誘客に努めていきたいと考えている。

(委員)

10月2日にニンテンドーミュージアムがオープンする。任天堂は、かるたを作っていた会社であり、例えば百人一首大会の事業等でコラボする等、京都アニメーションとの連携のように、何か連携できないのか。

(事務局)

ミュージアムのオープンを契機に小倉に新しく人が来られるため、市内を周遊できるバスの試験的な運行や、宇治市としてもサインの設置等の準備を進めているところである。

任天堂の商品を使っただけのコラボについては、中々難しいところもあるが、ポケふたは協力いただき設置出来たので、それらをPRしながら中宇治にも来ていただけたらと考えている。

(委員)

宇治といえば宇治茶。お茶は鎌倉時代のため、今回の大河ドラマには出てこないが、安土・桃山時代にも力を入れ、お茶についても発信して行っていただきたい。

(委員)

観光客が増加しているが、公衆トイレは足りているのか。

(事務局)

マップ等で公衆トイレについては案内している。特に不足しているという声は聞かないが、おもてなしとして大事な部分であり、快適に過ごしていただくため、今後様子を見ながら検討していくべきと考えている。

(委員長)

その他、全体的な意見等はあるか。

(委員)

市政だよりは全員が見ているわけではなく、SNS等は高齢になるとアクセスしにくい。どのように広報すべきかを検討してほしい。イベントのチラシも初めて目にするものが多いが、どこに行けばもらえるのか。

(事務局)

観光系のものは観光案内所等を中心に配布しているが、市民の方々にも知っていただくために、限られた中でどのように配布するのが効果的か考えていきたい。

市政だよりの載せ方については、一定基準はあるが、その点も含めてしっかりと見ていただく方の目につくような形に出来るよう、秘書広報課とも調整し工夫していきたい。

(委員)

宇治の魅力が発信できていない。文化スポーツ課から秘書広報課にもっと意見を言うべき。読みやすい伝わりやすい広報にするよう意見があったと広報に伝えてほしい。

(事務局)

いただいたご意見を踏まえ、さらに工夫できるよう、しっかりと伝えていきたい。

(委員長)

委員から情報の発信について様々な意見があった。情報の発信側と受け手側のコミュニケーションの問題であり、文化スポーツ課だけでなく、部署横断型で取り組んでいく必要がある。連携していくことで、宇治市の文化事業等も魅力的に映り、かつ受け止めてもらえるのではないかと考える。活発な議事進行に感謝する。

6. その他

(事務局)

議事日程(3)「令和6年度「源氏ろまん2024」(案)については、本日いただいた意見等も踏まえ、最終的に決定した内容について、後日メール等にて報告させていただきます。

7. 閉会